

防災・減災基礎（徳島大学防災リーダー養成講座：日本防災士機構認定カリキュラム）

前期2単位

前期 水曜日 9・10時限（16:20～17:50） 教養教育5号館 302／303教室

【授業目的】

（特）日本防災士機構の防災士養成カリキュラムに沿って、地震、津波、豪雨、火山などの自然災害や火災などの災害のしくみや被害の実態について理解するとともに、防災・減災を進める上での基礎的知識と技術を修得する。この講義を通して、履修生全員が「防災士」資格を取得することを目標とする。

【授業概要】

本講義は（特）日本防災士機構から認定された防災士養成カリキュラムである。地震、津波、風水害、火山、火災など代表的な災害のしくみや実態について説明し、その上で、最新の防災技術や減災技術について各分野の専門家が講述する。

【到達目標】

1. 地震、津波、風水害、火山災害、土砂災害、火災などの災害のしくみと被害の実態について理解する。
2. 最新の防災技術や減災技術について理解する。
3. 避難所運営やハザードマップの作成方法を修得する
4. 防災士資格を得る

【成績評価】

各講義ごとに理解度確認のため実施する確認テスト、別途提示する課題レポートと第16回に実施する防災士資格試験の受験結果によって、総合評価する。到達目標の達成度は確認テスト、課題レポート、防災士試験結果を80：10：10で評価するが、防災士試験を受験しなかった場合は期末試験を欠席したものとみなし、評価は「欠」となる。評点が60%以上を合格とする。

【課題レポート】

防災士教本の全講に対応する「履修確認レポート」を7月1日までに提出すること。課題資料については第3回講義の際に配布する。病気などで第3回の講義を欠席した場合は欠席理由書が提出された場合に課題資料を提供する。

【備考】

本講義を受講するためには、防災士教本代（3500円）と防災士試験受験料（3000円）、計6500円を負担する必要がある。防災士登録をして防災士証を得るためには、防災士試験に合格した上で、普通救命講習（本講義受講生対象の講習、徳島市東消防署、徳島市西消防署、鳴門市消防局等の地元消防署で開催される講習）の修了証のコピーと防災士登録料（5000円）を（特）日本防災士機構に提出する必要がある。なお、防災士登録は任意とする。

回	日付	曜日	講義内容	防災士教本対応表	講師	肩書
1	4月14日	水	オリエンテーション／耐震診断と補強、災害と損害保険	第4章自助	小川 宏樹	教授
2	4月21日	水	ライフライン・交通インフラの確保	第13講	上月 康則	教授
3	4月28日	木	近年の主な自然災害、防災士に期待される役割	第21講	中野 晋	教授
4	5月12日	水	災害医療とこころのケア	第12講	西村 明儒	教授
5	5月19日	水	行政の災害救助・応急対応、復旧・復興と被災者支援	第10講、第11講	中野 晋	教授
6	5月26日	水	避難所の設置と運営協力、地域防災と多様性への配慮	第18講、第19講	金井 純子	助教
		土	普通救命講習第1回 定員30名（13～16時）		徳島市東消防署	学生優先
7	6月2日	水	広域・大規模火災	第5講		徳島市消防局予防課
8	6月9日	水	地震・津波による災害	第1講	馬場 俊孝	教授
		土	普通救命講習第1回 定員30名（13～16時）		徳島市東消防署	学生優先
9	6月16日	水	土砂災害と火山災害	第3講、第4講	西山 賢一	准教授
10	6月23日	水	気象災害・風水害、風水害・土砂災害への備え	第2講、第16講	武藤 裕則	教授
11	6月30日	水	災害ボランティア活動	第20講	畠 一樹	講師
12	7月7日	水	災害関連情報と予報・警報	第6講		徳島地方気象台
13	7月14日	水	地震・津波への備え、被害想定とハザードマップ	第7講、第15講	田村 隆雄	准教授
14	7月21日	水	自主防災活動と地区防災計画	第17講	井若 和久	（一社）さいわい代表
15	7月28日	水	行政の災害対策と危機管理、企業・団体の事業継続	第9講、第14講	湯浅 恭史	助教
16	8月4日	水	修了式／防災士試験（期末試験）			